

金沢美術工芸大学

KANAZAWA COLLEGE OF ART

社会連携研究成果報告書 2015

**人に夢を。  
地域に活力を。  
ビジネスに未来を。**

**金沢美大の創造力を、  
あなたの事業に  
お役立てください。**

金沢美術工芸大学では、社会連携センターを拠点に、広く企業や研究機関・公共団体などの連携活動を推進しています。

**POLICY  
理念**

金沢美術工芸大学は社会貢献を、教育と研究に並ぶ大学の使命と位置づけ、地域連携・産学連携を通して積極的に社会貢献を行います。

1. 本学の持つ美術工芸分野の専門知識や技術、社会連携で得られた成果を広く社会に還元します。
2. 地域の産業と積極的に連携を図り、地域社会の活性化に貢献します。
3. 社会との連携活動を体験することで、より実践的に社会に寄与できる人材を育成します。

**SYSTEM  
活動体制**

テーマの規模や内容、状況に応じて、様々な研究方法・スタイルを準備しています。詳細はお問い合わせください。

**研究制度**

**共同研究**

企業や教育機関より研究者・研究経費等を受け入れ、共通の課題について対等な立場で研究を行う制度

**受託研究**

企業等から委託を受け、委託者の負担する経費で研究を行い、その成果を委託者に報告する制度

**研究体制**

**プロジェクト型（課外活動型）**

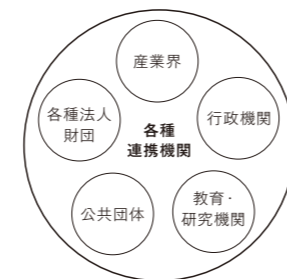
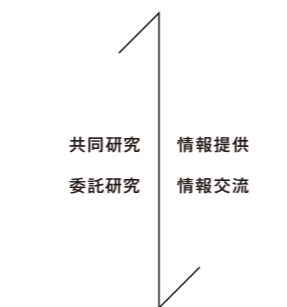
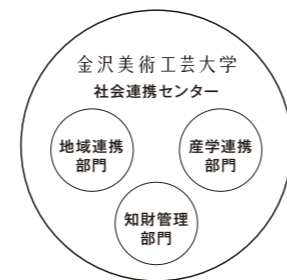
教員の指導により研究を推進。学生の新しい視点での発想、現実性の高い成果が期待できます。

**プロフェッショナル型**

教員との研究。ハイレベルで実践的な研究成果が期待できます。

**NETWORK  
社会連携**

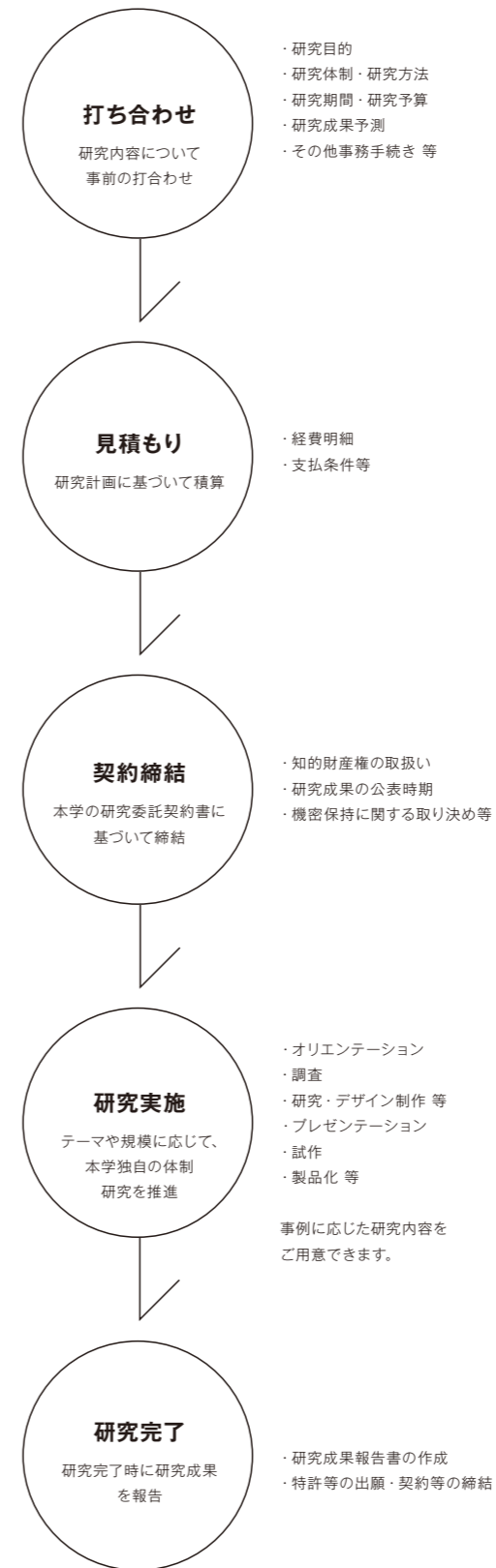
他大学・研究機関とのパートナーシップを深め、実現性の高いハイクラスの研究を推進します。



**FLOW  
活動の流れ**

以下のような、求められる課題や相談に対し、よりよき成果をめざして、確かな体制と綿密プロセスをベースに研究を進めています。

- 商品の企画・開発にデザインを利用したい
- CI・ブランド開発にデザインを活用したい
- マーケティングにデザインを活用したい
- 店舗・施設の開発にデザインを活用したい
- 伝統工芸の専門技術を商品開発に活用したい
- 美術（芸術）分野の専門知識を商品開発に活用したい



**FIELD  
活動領域**

美術・工芸・デザインから芸術学まで、本学に蓄積された有形無形の資産をベースに、気鋭のプロフェッショナル達がハイレベルの研究活動を推進します。

本学の教員は、それぞれが独立したプロの作家、デザイナー、研究者です。活躍する分野はもちろん、年齢、経歴、ネットワークも様々な人材が、才能にあふれる学生たちとともに連携事業の研究活動を推進します。

**美術系**

日本画 / 油画 / 彫刻 / 芸術学

**デザイン系**

視覚デザイン / 製品デザイン / 環境デザイン / ファッションデザイン

**工芸系**

陶磁 / 漆・木工 / 鍍金・彫鍍金 / 染・織

**専門領域分野**

ヴィジュアルコミュニケーション  
 広告デザイン  
 サインデザイン  
 映像・メディアデザイン  
 Web デザイン  
 パッケージデザイン  
 ユニバーサルデザイン  
 インターフェイスデザイン  
 情報機器デザイン  
 輸送機器デザイン  
 家具デザイン  
 生活関連用品デザイン  
 都市計画デザイン  
 建築デザイン  
 インテリアデザイン  
 ディスプレイデザイン  
 ランドスケープデザイン  
 ファッションデザイン  
 テキスタイルデザイン  
 陶芸  
 漆芸  
 木工  
 彫鍍金  
 鍍金  
 染織  
 モニュメント  
 壁画  
 材料・修復

064 ➡ 079

学生 1000 人当たりの開発した商品・サービス数ランキング

順位	大学名	国公私別	都道府県	件数	1000人あたり
1	金沢美術工芸大学	公立	石川県	21	33
2	和洋女子大学	私立	千葉県	70	28
3	名古屋文理大学	私立	愛知県	18	18.3
4	松本大学	私立	長野県	24	16.2
5	宇都宮大学	国立	栃木県	46	11.1
6	京都嵯峨芸術大学	私立	京都府	5	10.2
7	長野大学	私立	長野県	11	8.8
8	小樽商科大学	国立	北海道	19	8.3
9	東京造形大学	私立	東京都	14	7.9
10	東京工芸大学	私立	東京都	32	7.4

出典：日経グローバル No.282 2015 12/21 大学地域貢献度調査から

過去5年間の社会連携研究数

年度	地域連携事業数	産学連携事業数	合計
2011 (H23)	5	8	13
2012 (H24)	17	14	31
2013 (H25)	32	17	49
2014 (H26)	27	19	46
2015 (H27)	18	16	34
計	99	74	173

- 064 障害者支援施設「希望が丘」における陶芸活動 6
- 065 金沢市企業局「ガスぼーと」ロゴデザイン 7
- 066 金沢マラソン完走メダルデザイン制作 8
- 067 首都圏における  
総合的なプロモーションを展開するための  
北陸新幹線金沢開業 PR ポスター制作 9
- 068 金沢の食文化の魅力を発信するための  
映像制作「ごちそうオノマトペ」 10
- 069 北陸経済連合会スローガン、ロゴマーク制作 11
- 070 ホスピタリティラウンジ・プロジェクト  
待ち時間を豊かにする椅子 IV・V  
「石川県立音楽堂と新幹線ホームをつなぐ椅子」 12
- 071 かなざわエコライフキャンペーン  
ダンボールエコアート出展事業 13
- 072 兼六小学校校章デザインとその活用計画 14
- 073 ホスピタリティアート・プロジェクト 第18回  
光の回廊シリーズ(その7)  
「夢の発掘」ワークショップ・作品展示 15
- 074 ホスピタリティアート・プロジェクト 第19回  
第4回ホスピタル・ギャラリー  
—病院が美術館になる日「安らぎのいろ・かたち・味わい」— 16
- 075 北陸銀行 ウィンドウおよび店舗 作品展示 17
- 076 問屋まちスタジオにおける活動  
問×美 2015 — JOINT — 18
- 077 アートベース石引における展示活動 19
- 078 人工衛星を利用した地上絵の制作研究 20
- 079 「金沢百万石まつり」スタッフTシャツデザイン 21

# 064

## 障害者支援施設「希望が丘」における陶芸活動



社会福祉法人希望が丘では、薪窯が長く未使用状態になっていたため、美大の学生と共に再び火を入れたいという協力依頼があった。共同で窯焼成を行うとともに、希望が丘利用者の皆さんに対する制作指導などを通じた交流を行う事を目的として取り組む事とした。窯の大きさから推定すると焼成のための赤松の薪は約800束必要であろうと考えられたが、その薪も近隣の公園から調達できるとのことで、薪を買うのではなく自分たちで割るところから始める経験はこれから社会に出ていく学生にとって良い機会になった。

平成27年春から薪を割り始め、夏前にほぼ薪の準備は完了した。また希望が丘利用者の皆さんに対する陶芸作品制作指導では、学生の自由な発想による指導により、日ごろの制作を離れてユニークな作品も数多く仕上がりが大変充実した時間となった。9月20日から窯詰めを始め、大学で制作した作品と、希望が丘の利用者の皆さんの作品を窯の中に慎重につめ、2日間で約300点の作品を窯に収めた。27日夕刻から焼成を始め、火を絶やすことなく約70時間で焼成を終えた。10月11日の窯出しは希望が丘の祭りとも重なり、内外のお客様もたくさん見学に来ていただいた。何より希望が丘の皆さんが作品の完成を喜んでくれたことは大変うれしい出来事だった。



火入れ



火入れ



窯出し



完成作品

### 【開発日程】

2015年  
4月 薪割り開始  
9月20日 窯詰め  
9月27日 焼成  
10月11日 窯出し

### 【参加学生】

- 有安 玲** 大学院修士課程工芸専攻 陶磁コース2年
- 岩佐 悠子** 大学院修士課程工芸専攻 陶磁コース2年
- 林 美后** 大学院修士課程工芸専攻 陶磁コース2年
- 田中 陽子** 大学院修士課程工芸専攻 陶磁コース1年
- 村田 言恵** 大学院修士課程工芸専攻 陶磁コース1年
- 李 佳妮** 大学院修士課程工芸専攻 陶磁コース1年
- 若林 宏美** 工芸科陶磁コース4年
- 関本 瑞穂** 工芸科陶磁コース4年
- 佐藤 文** 工芸科陶磁コース4年
- 鈴田 清人** 工芸科陶磁コース4年
- 大矢 彩里** 工芸科陶磁コース3年
- 小川 由利子** 工芸科陶磁コース3年
- 河野 歩乃花** 工芸科陶磁コース3年
- 先山 絵梨** 工芸科陶磁コース3年
- 田邊 樹美** 工芸科陶磁コース3年
- 水野 沙羅** 工芸科陶磁コース3年
- 井田 洸** 工芸科陶磁コース2年
- 松岡 紗羅** 工芸科陶磁コース2年

### 【委託者】

社会福祉法人 希望が丘

### 【期間】

2015年4月1日—2016年10月11日

### 【研究体制】

#### プロジェクト型

### 【担当教員】

- 山本 健史** 教授 工芸科
- 池田 晶一** 准教授 工芸科
- 宮永 春香** 講師 工芸科

# 065

## 金沢市企業局「ガスぽーと」ロゴデザイン



### 【委託者】

金沢市企業局

### 【期間】

2014年11月—2015年11月

### 【研究体制】

#### プロジェクト型

### 【担当教員】

後藤 徹 教授 デザイン科視覚デザイン専攻

### 【参加学生】

- 山本 佳奈** 視覚デザイン専攻3年
- 澤合 妙英** 視覚デザイン専攻3年
- 養父 凜** 視覚デザイン専攻3年
- 大津 裕貴** 視覚デザイン専攻3年
- 岡村 早矢花** 視覚デザイン専攻3年
- 荻田 瑞絵** 視覚デザイン専攻3年
- 熊木 良太** 視覚デザイン専攻3年
- 呉藤 結咲** 視覚デザイン専攻3年
- 坂本 裕汰** 視覚デザイン専攻3年
- 佐藤 凌介** 視覚デザイン専攻3年
- 篠田 彩音** 視覚デザイン専攻3年
- 高原 龍彦** 視覚デザイン専攻3年
- 田中 裕梨** 視覚デザイン専攻3年
- 辻 ひとみ** 視覚デザイン専攻3年
- 杉元 淳** 視覚デザイン専攻3年
- 日比野 真愛** 視覚デザイン専攻3年
- 松浦 朱里** 視覚デザイン専攻3年
- 松田 葉生子** 視覚デザイン専攻3年
- 水野 早希** 視覚デザイン専攻3年
- 山田 明子** 視覚デザイン専攻3年
- 山戸 露** 視覚デザイン専攻3年
- 横山 茜** 視覚デザイン専攻3年
- 吉本 穂花** 視覚デザイン専攻3年
- 渡辺 雅夫** 視覚デザイン専攻3年

金沢市企業局事業の一環として、エネルギーとしての「ガス」をもっと金沢市民に広めようと金沢市西念にサービスステーションを建設した。

市民の目線で親しみあるシンボルマークを制作したいというコンセプトで、金沢美術工芸大学に社会連携事業として依頼があった。プロセスはショールームネーミング→シンボルデザインの制作→会場レイアウトという手順で作業を行った。

ネーミングは日本全国から公募し、後藤教授も審査員として参加して最終的に「ガスぽーと」に決定。デザインは視覚デザイン専攻2年を中心にコンペ形式で作品を絞り1次審査(60点)、2次審査(8点)を経て最終的に山本佳奈さんの作品に決定した。



建物外観



建物夜景



屋外サイン



表彰式

### 【開発日程】

2014年  
11月—2015年11月  
ネーミング公募

### 2015年

- 5月 シンボルマーク1次審査 (60点)
- 6月 シンボルマーク2次審査 (8点)
- 10月 ショールームロゴ設置
- 11月13日 ショールームオープン



# 066

## 金沢マラソン完走メダルデザイン制作



【委託者】  
金沢市 市民局 金沢マラソン推進課

【期間】  
2015年4月—2016年3月31日

【研究体制】  
プロジェクト型

【担当教員】  
浅野 隆 教授 デザイン科製品デザイン専攻

【参加学生】  
江原 次郎 製品デザイン専攻3年  
桑原 孝史 製品デザイン専攻3年  
松本 優子 製品デザイン専攻3年  
満越 万莉 製品デザイン専攻3年

第1回金沢マラソン2015は2015年11月15日に抽選で選ばれた参加者12000名が城下町を駆け抜けた。その歴史に残る第1回大会の完走者に贈るメダルのデザインに本学製品デザイン専攻の4名の学生が臨んだ。デザインテーマは「金沢らしさ」、他のどの大会にも見られないオリジナリティのあるデザインが求められた。提案した12案はどの案もすばらしく、その中から江原次郎君がデザインした案が採択された。

デザインコンセプトは、金沢の玄関口である金沢駅鼓門をイメージし、金沢マラソンのロゴ・マークと「11.15 Finisher」の文字を加賀五彩の1つである鱧脂(えんじ)で刻印し、金沢らしさを表現した。また、メダル本体の色をソフトシルバーとすることで、高級感の演出と他大会との差別化を図ることとした。

11447人の完成したランナーからはメダルのデザインは大好評で、第1回金沢マラソンを盛り上げる大きな成果を残した。



採用されたメダルデザイン(デザイン桑原孝史)



加賀梅鉢メダル案

【開発日程】

2015年

4月 事前打ち合わせ

5月 オリエンテーション、課題説明

7月 デザイン選考、ブラッシュアップ、試作モデルの制作

8月 市長への試作品完成報告会と記者発表

10月 メダル完成

11月15日 マラソン大会にて、1万人を超える完走者に配布した。



銅メダル案



梅メダル案

# 067

## 首都圏における総合的なプロモーションを展開するための北陸新幹線金沢開業 PR ポスター制作



【委託者】  
金沢市 プロモーション課

【期間】  
2014年8月—2015年7月31日

【研究体制】  
プロフェッショナル型

【担当教員】  
宮崎 晋 客員教授 デザイン科視覚デザイン専攻  
寺井 剛敏 教授 デザイン科視覚デザイン専攻

【参加学生】  
視覚デザイン卒業生チーム

【開発日程】

2014年

4月 オリエンテーション

5月~ コピー及びデザイン案検討

7月~ コピー及びデザイン案最終案決定、デザイン制作

9月 春・夏・冬バージョン制作・掲出

2015年

7月 秋バージョン追加制作・掲出

春:「桜の美しい声が聞こえます。穏やかな大人の街だから。」

夏:「雨でよかった。そう思える街並が、この国にいくつあるだろう。」

秋:「ひとり、考える。そのために金沢に行く、という人もいます。」

冬:「自然の美しさと、手仕事の美しさで、金沢の冬はできている。」

2015年3月14日北陸新幹線開業に向けて、ロゴマーク及びキャッチフレーズを利用して首都圏へ向けてPRするための観光ポスターの研究開発を行った。

金沢の古き良き街並みを、「四季の美しさ」と「工芸の街」という2つの長所を掛け算で見せるために、四季のモチーフを使った金沢ならではの点描を使って表現しました。「雪」は、日本庭園の「兼六園」を、しんしんと降り積もる「綿雪」を並べてその情景を。「桜」は、「金沢城石川門」に咲く、満開の桜の「花びら」で、華やかに。「雨」は、1年の半分以上が雨の日という金沢の伝統的な街並みである「ひがし茶屋街」を、「雨粒」でしっとり。「紅葉」は、「鈴木大拙館」の水面に映る情景を「紅葉」で構成しました。

第63回日本観光ポスターコンクール：グランプリ・国土交通大臣賞受賞

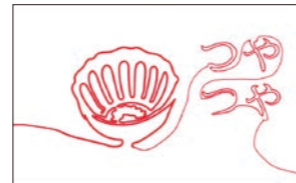
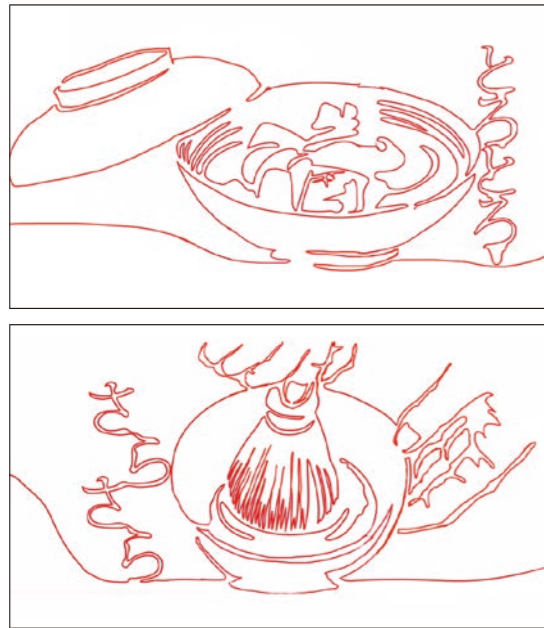
# 068

## 金沢の食文化の魅力を発信するための映像制作「ごちそうオノマトペ」

金沢の食文化の魅力を積極的、効果的に内外に発信するための映像の研究開発を行った。

金沢の総合的な食文化（海の幸、加賀野菜、お酒、菓子とお茶、発酵食、器、作法しつらえ）をそれぞれの分野から抜き出して制作しています。味覚、視覚、聴覚、臭覚、触覚の五感で感じる、ごちそう感を様々なオノマトペで表現しています。

金沢美大 OB の映像作家・奥下和彦氏の「一筆アニメ編」とシズル感たっぷりの映像で见せる「実写シズル編」の2本立てというとてもユニークなスタイルの映像作品にまとめました。



【委託者】 金沢市 商業振興課
【期間】 2015年4月—2016年1月31日
【研究体制】 プロフェッショナル型
【担当教員】 宮崎 晋 客員教授 デザイン科視覚デザイン専攻 寺井 剛敏 教授 デザイン科視覚デザイン専攻

【参加学生】 視覚デザイン卒業生チーム
【協力】 映像制作 奥下和彦 金沢美術工芸大学 視覚デザイン専攻 卒業生 ポータル 安田奈央

【開発日程】
2014年 4月 オリエンテーション
2015年 5月 金沢の食文化推進委員会・情報発信部会 6月～ コンテ案修正・調整 9月～ 撮影、編集など 12月 金沢の食文化推進委員会・情報発信部会
2016年 01月 金沢の食文化推進委員会「ごちそうオノマトペ」映像発表

# 069

## 北陸経済連合会スローガン、ロゴマーク制作



【委託者】 北陸経済連合会
【期間】 2014年4月—2015年3月
【研究体制】 プロフェッショナル型
【担当教員】 宮崎 晋 客員教授 デザイン科視覚デザイン専攻 寺井 剛敏 教授 デザイン科視覚デザイン専攻

【参加学生】 視覚デザイン卒業生チーム
------------------------

東阪名を中心とした国内の企業やビジネスマンが、中韓をはじめとするアジア諸国が、さらには世界中が、日本とグローバルをつなぐビジネスの新しい拠点を模索するとき、「HOKURIKU」がその選択肢のひとつになるための、スローガン、ロゴマークのデザイン開発を行った。

マークは、富山・石川・福井の北陸三県へのアクセスのしやすさ、拡大するビジネスのサクセスを表現しています。色は、富山は立山連峰や自然の緑、石川は輪島塗やベンガラ赤（紅）、福井は日本海の青を象徴しています。R（レッド）、G（グリーン）、B（ブルー）は光の三原色でもあり、その交わり方でいろんな色の輝きを生み出すことができます。モダンでありながら日本の伝統を感じさせ、未来への発展をイメージしています。



【開発日程】
2014年 7月 オリエンテーション 10月～ スローガン提案検討
2015年 1月～2月 ロゴマーク制作調整 3月 完成納品

ロゴマークとスローガンの組み合わせバリエーション



名刺での展開



# 070

## ホスピタリティラウンジ・プロジェクト 待ち時間を豊かにする椅子 IV・V 「石川県立音楽堂と新幹線ホームをつなぐ椅子」

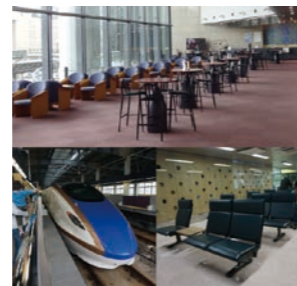


左：2014年度人気投票1位、2位 右：2015年度人気投票1位、2位

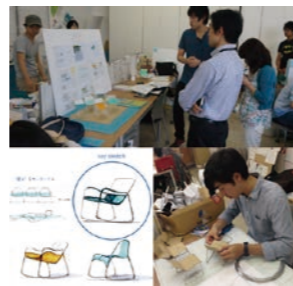
2014年～2015年にかけて、「待ち時間を豊かにする椅子」をテーマに石川県立音楽堂とホスピタリティラウンジ・プロジェクトに取り組んだ。同音楽堂で過ごす待ち時間が少しでも快適になるよう、学生自らが来場者や職員にアンケート調査や意見をもらいながら椅子をデザインし、機能性と音楽性ももたらす癒しの造形が融合した優美な椅子が多く生まれた。また、制作した椅子の1/1プロトタイプを展示し、来場者に座ってもらい、人気投票を行い評価も行った。

2015年春には北陸新幹線も開通し、同音楽堂の待合スペースを新幹線の待ち時間にも利用できることを想定した椅子のデザインを展開したことで、旅行者の鞆に配慮したり、金沢らしい伝統美を感じさせる質感の高い椅子も生まれた。

また、先行研究として2011年～2013年、金沢市立病院とホスピタリティアート・プロジェクトの一例として病院の椅子のデザインに取り組んだ内容を含め、これらの取り組みが、日本インテリアデザイナー協会主催のJID AWARD 2015のNEXTAGE部門賞を受賞した。



石川県立音楽堂 待合スペース調査  
JR 金沢駅新幹線ホーム待合スペース調査



石川県立音楽堂関係者中間報告  
アイデア展開、1/5スケールモデル検証



1/1プロトタイプ制作  
座り心地検証、スタイリング検証、CMF検証

### 【開発日程】

2014年  
6月10日 石川県立音楽堂視察調査  
6月12日 アンケート調査  
6月19日 同音楽堂関係者 中間報告  
7月～8月 詳細デザイン、プロト制作  
9月30日～10月16日  
「待ち時間を豊かにする椅子展」(石川県立音楽堂)

11月13日～11月16日  
「第41回石川県デザイン展 出展」(金賞受賞 / 権木迎賓館展)

11月20日～11月30日  
本学教員研究発表展 2014 (金沢21世紀美術館)

### 2015年

6月5日 石川県立音楽堂視察調査  
6月13日 コンサート視察、アンケート調査  
6月15日 同音楽堂関係者 中間報告  
7月～8月 詳細デザイン、プロト制作  
9月24日～10月7日  
「待ち時間を豊かにする椅子展」(石川県立音楽堂)

11月26日～12月6日  
本学教員研究発表展 2015 (金沢21世紀美術館)



公開プレゼンテーション、展示、アンケート  
石川県立音楽堂、金沢駅、メーカー関係者に向けて



JID AWARD 2015 NEXTAGE 部門賞受賞  
主催：日本インテリアデザイナー協会

【委託者】	石川県立音楽堂
【期間】	2014年6月9日～2015年4月12日 2015年6月9日～2015年12月6日
【研究体制】	プロジェクト型
【担当教員】	根来 貴成 准教授 デザイン科製品デザイン専攻
【参加学生】	2014年 秋山 朝子 製品デザイン専攻3年 荒木 穂 製品デザイン専攻3年 今村 美月 製品デザイン専攻3年 伊村 拓見 製品デザイン専攻3年 尾方 祐美 製品デザイン専攻3年 垣田 悠作 製品デザイン専攻3年 唐澤 学 製品デザイン専攻3年 川西 裕生 製品デザイン専攻3年 岸 春伽 製品デザイン専攻3年 佐藤 大輔 製品デザイン専攻3年 清水 真帆 製品デザイン専攻3年 志村 拓真 製品デザイン専攻3年 鈴木 儼 製品デザイン専攻3年 田原 彩友美 製品デザイン専攻3年 西口 真由 製品デザイン専攻3年

2014年	池田 有希 製品デザイン専攻3年 石田 晴希 製品デザイン専攻3年 一丸 真奈美 製品デザイン専攻3年 鶴川 由似 製品デザイン専攻3年 江原 次郎 製品デザイン専攻3年 大石 由貴 製品デザイン専攻3年 加藤 美咲 製品デザイン専攻3年 黒澤 秀 製品デザイン専攻3年 桑原 孝史 製品デザイン専攻3年 合田 貴子 製品デザイン専攻3年 坂井 美香 製品デザイン専攻3年 武井 亮子 製品デザイン専攻3年 當房 愛美 製品デザイン専攻3年 馬場 菜摘 製品デザイン専攻3年 松本 優子 製品デザイン専攻3年 溝越 万莉 製品デザイン専攻3年 師 直樹 製品デザイン専攻3年 山崎 文葉 製品デザイン専攻3年
-------	---

# 071

## かなざわエコライフキャンペーン ダンボールエコアート出展事業



フライヤー

【委託者】	金沢市 地球温暖化対策協議会
【期間】	2015年9月1日～2015年11月30日
【研究体制】	プロジェクト型
【担当教員】	後藤 徹 教授 デザイン科視覚デザイン専攻 工藤 俊之 教授 デザイン科視覚デザイン専攻

【参加学生】	石川 莉夏子 視覚デザイン1年 市川 明穂 視覚デザイン1年 大石 風花 視覚デザイン1年 小野寺 澪 視覚デザイン1年 笠原 敦史 視覚デザイン1年 岸本 夕奈 視覚デザイン1年 木村 桃子 視覚デザイン1年 小林 佳奈子 視覚デザイン1年 小林 千裕 視覚デザイン1年 小林 莉子 視覚デザイン1年 米谷 咲月 視覚デザイン1年 佐藤 文香 視覚デザイン1年 多賀 柊子 視覚デザイン1年 峰峻 大信 視覚デザイン1年 中村 直人 視覚デザイン1年 野見山 修平 視覚デザイン1年 碓 勇樹 視覚デザイン1年 藤井 涼 視覚デザイン1年 宮部 結 視覚デザイン1年 山腰 彩夏 視覚デザイン1年 吉田 昇 視覚デザイン1年
--------	---

【開発日程】	2015年 7月10日 オリエンテーション 7月21日 制作開始 7月30日 プレゼンテーション 10月1日 大学内展示開始 10月9日 展示終了 10月24日 金沢駅搬入 / 展示 10月25日 金沢駅展示 / 撤出
	10月26日から約1年間 戸室リサイクルプラザに展示
	10月26日から約1年間 西部リサイクルプラザに展示

「かなざわエコライフキャンペーン」の一環として、金沢駅もてなしドーム地下イベント広場において、視覚デザイン1年生21名が「エコ」をテーマにダンボールの立体作品を展示した。また会場では視覚デザイン1年生全員がワークショップを開催し、子供達と一緒にダンボールのお面を制作した。

ダンボール展の開催にあたり、まず学生自身が「エコ」とは何か、どうすれば伝わるか、また与えられたダンボールという素材はもともと廃棄されるものだが、それにもう一度命を吹き込み、21人が21通りのメッセージを作り上げた。金沢市民のみならず新幹線で来られる県外からの方々や老若男女に今一度エコを考えてもらう機会を与えた。



展示の様子



学生作品



ワークショップの様子



ワークショップの参加者



# 072

## 兼六小学校校章デザインとその活用計画

平成 28 年 4 月に金沢市内の材木町、味噌蔵町両小学校が統合されて新しく開校する兼六小学校の校章デザインを開発した。現在の両小学校の校章や隣接する兼六園等の地域性を参考にしてデザイン展開を制作し、校旗やネームプレート等への活用計画も実施した。また、このプロジェクトは、地域で活躍する本学の卒業生を起用し、プロフェッショナル型で取り組んだ。



校章 カラー版

【委託者】	金沢市 教育総務課
【期間】	2015 年 11 月 - 2016 年 2 月
【研究体制】	プロフェッショナル型
【担当教員】	角谷 修 教授 デザイン科環境デザイン専攻 (監修)

【共同研究者】	橋本 謙次郎 有限会社橋本謙次郎デザイン制作室
---------	----------------------------

【開発日程】	
2015 年	
10 月	教育総務課との目的、概要打合せ
11 月	学内協議とデザイン案策定プレゼンテーション
12 月	デザイン案の絞込みと各方面への調整
2016 年	
1 月	デザイン案決定と活用計画
2 月	最終調整
4 月	小学校開校



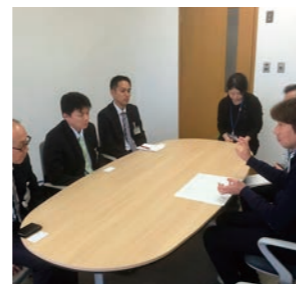
校章 単色版



校旗



ネームプレート



打ち合わせ

# 073

## ホスピタリティアート・プロジェクト 第 18 回 光の回廊シリーズ (その 7) 「夢の発掘」ワークショップ・作品展示



光の回廊 完成

【委託者】	金沢市立病院
【期間】	2015 年 6 月 24 日 - 2015 年 9 月 18 日
館内展示	8 月 25 日 - 9 月 18 日
ワークショップ	8 月 25 日 13:00 ~ 16:00
【研究体制】	プロジェクト型
【担当教員】	三浦 賢治 教授 美術科油画専攻 岩崎 純 准教授 美術科油画専攻
【参加学生】	岩城 佳那子 美術科油画専攻 1 年 佐藤 晴菜 美術科油画専攻 1 年 棚部 芹 美術科油画専攻 1 年 筒井 愛子 美術科油画専攻 1 年 角田 優美 美術科油画専攻 1 年 升沢 春奈 美術科油画専攻 1 年 四本 優南 美術科油画専攻 1 年 岩岡 朝日 美術科油画専攻 2 年 坪井 一 美術科油画専攻 2 年 藤原 保奈美 美術科油画専攻 2 年 古中 雄二 美術科油画専攻 2 年 星原 健人 美術科油画専攻 2 年

宮崎 竜成	美術科油画専攻 2 年
山岸 耕輔	美術科油画専攻 2 年
大野 三結	美術科油画専攻 3 年
上原 勇希	美術科油画専攻 3 年
佐藤 李香	美術科油画専攻 3 年
野木 麻美	美術科油画専攻 3 年
山本 武明	美術科油画専攻 4 年
河原 万生子	美術科日本画専攻 3 年
池上 竹途	大学院修士課程絵画専攻 油画コース 1 年
楓 大海	大学院修士課程絵画専攻 油画コース 1 年
千川 岳志	大学院修士課程絵画専攻 油画コース 1 年
米田 貫雅	大学院修士課程絵画専攻 油画コース 1 年
大田 香	大学院修士課程デザイン専攻 ファッションデザインコース 1 年
加茂 那奈枝	大学院修士課程美術工芸専攻 油画コース 3 年
マリー・ドスダ	ナンシー・ロレーヌ大学 3 年

金沢市立病院と美大との連携により、医療分野におけるアートの潜在的な可能性を追求する事を目的とした「ホスピタリティアート・プロジェクト」第 18 回企画として、今年度の「光の回廊シリーズ~その 7」ワークショップ・展示は、「夢の発掘」と題し実施された。病院 1 階待合ホール大ガラスに患者、医療者、学生の協働によりステンドグラス風の装飾を施されるこのワークショップ・展示企画は、病院の恒例行事のように病院関係者および周辺地域に受け入れられている。図案会議に始まり、大学での下準備、ワークショップ、展示、撤収に至るまでを例年通り無事に終えることができた。このプロジェクトの意義は、医療環境に彩りの空間を現出させることにより、通院・入院患者、医療関係者の日常に癒しの効果を体感してもらうことにあるが、重要なことは、ワークショップにより患者、医療関係者、協力学生が同じ視点で時間を共有することで現出するコミュニケーションの有様である。

今年度も成功裏に終えることができた要因は、美大と市立病院との連携もさることながら、協力学生の献身的な作業に依るところが大きい。ボランティアとして労を惜まず作業に携わる彼等の姿を見て、この活動を美大の美術教育に具体的に還元させる必要を感じている。



光の回廊 1



光の回廊 2



市立病院でのステンドグラス制作



ワークショップの様相

【開発日程】	
2015 年	
6 月 24 日	第 1 回企画会議
6 月 30 日	第 2 回企画会議
7 月 28 日	第 3 回企画会議 (図案決定)
7 月 31 日	材料確認、発注
8 月 14 日	「HAP T シャツ」完成
8 月 17 日 ~ 21 日	大学での制作、下準備 (ワークショップ材料・セロファンパーツ)
8 月中旬	市の広報にお知らせ (市立病院発信)
8 月 21 日	脚立、足場、コンパネ等の資材を病院に搬入
8 月 23 日	市立病院に集合、ガラスシート張り替え、カラーセロファンによる大ガラスの装飾開始
8 月 24 日	ステンドグラス制作
8 月 25 日	ステンドグラス制作ワークショップを経て完成
9 月 18 日	撤収 (セロファン剥がし、資材搬出)



# 074

## ホスピタリティアート・プロジェクト 第19回 第4回ホスピタル・ギャラリー

—病院が美術館になる日「安らぎのいろ・かたち・味わい」—



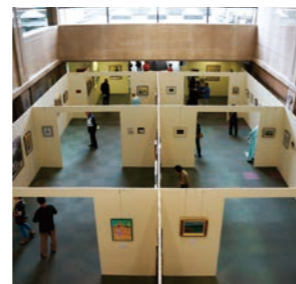
平成 21 年度より金沢市立病院と金沢美術工芸大学との連携のもと取り組んできたホスピタリティアート・プロジェクト (HAP) の一環として、病院がより市民の方々に身近な施設となるための「市民がつくる安らぎの医療」をメインテーマに、平成 24 年度よりホスピタル・ギャラリーを開催している。第4回となる本展においても、市民や患者、医療関係者の手になる作品展示によって病院の待合ホールは期間限定の美術館とも言える展示空間が創出された。市民、患者、登録医、介護施設などから募り、作品募集テーマ「安らぎのいろ・かたち・味わい」の趣旨に賛同して集まった絵画、彫刻、書、手芸、工芸等の 149 点の作品群と観覧者 1,059 名によって、中秋の市立病院待合ホールには和やかなコミュニケーション空間が紡ぎ出された。美大関係者のみならず、病院の医師、看護師も一体となって展覧会の運営に積極的に携わる点において、全国的に見ても希な取り組みであると言える。



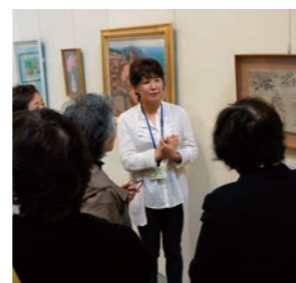
打ち合わせ



会場風景



展示風景



10月12日に開催したギャラリートークの様様

### 【開催日程】

#### 2015 年

- 6月23日 第1回企画会議
- 7月8日 第2回企画会議
- 7月9日 ポスター、作品募集要項、DM 入稿
- 7月10日～9月11日 作品募集、案内
- 7月22日 ポスター、DM 入荷
- 7月22日 作品募集要項入荷
- 9月29日～10月2日 作品搬入、受付
- 10月9日～7日 ギャラリー開催案内(新聞広報、記事提供、FB)
- 10月9日 展示作業、展覧会目録入荷
- 10月10日～12日 ギャラリー開催
- 10月12日 15:30～17:00 ホスピタル・ギャラリートーク開催
- 10月12日 撤収、作品返却

### 長谷川 翔吾 修士課程絵画専攻油画コース2年

#### 撤収

- 井野 涼 修士課程絵画専攻油画コース2年
- 竹内 佑未 修士課程絵画専攻油画コース2年
- 山口 峻司 油画専攻4年
- 古中 雄二 油画専攻2年
- 棚部 芹 油画専攻1年

金沢市立病院スタッフ  
ホスピタリティアート・プロジェクトメンバー

#### 院長 高田 重男

#### 眼科 横川 由起子

#### 小児科 瀬野 晶子

#### 消化器内科 辻 宏和

- 看護部 中町 麻紀子 波佐谷 摩耶
- 坂尻 裕子 門口 楓
- 澤石 都 内藤 友実
- 原 みのり 坂井 郁子
- 安藤 直樹 岩瀬 匠

#### 放射線室 安土 佳宏

#### リハビリテーション室 大坪 尚典 中島 孝

#### 臨床検査室 大島 有加

#### 薬剤室 小路 晃平

#### 事務局 北野 弘之 岩井 隆之

#### 市民アドバイザー 富地 晃 野川 勝紀

#### 駒井 順子

### 【委託者】

金沢市立病院

### 【期間】

2015 年 6 月 23 日—10 月 12 日

#### ギャラリー開催

10 月 10 日—10 月 12 日

9:30～17:00

#### ホスピタル・ギャラリートーク

10 月 12 日 (月) 15:30～17:00

### 【研究体制】

#### プロジェクト型

#### 【担当教員】

三浦 賢治 教授 美術科油画専攻  
ホスピタリティアート・コーディネーター

岩崎 純 准教授 美術科油画専攻

横川 善正 名誉教授 金沢市立病院  
ホスピタリティアート・プロジェクト顧問

#### 【参加学生】

#### 設営

四本 優南 油画専攻1年

升澤 春奈 油画専攻1年

富澤 克佳 油画専攻3年

上原 勇希 油画専攻3年

中橋 秀斗 油画専攻4年

井野 涼 修士課程絵画専攻油画コース2年

片岡 夏凜 修士課程絵画専攻油画コース2年

# 075

## 北陸銀行 ウィンドウおよび店舗 作品展示



個展「NAMU!! SAKUHINI!!」 湯本 裕生

### 【委託者】

株式会社 北陸銀行

### 【期間】

2015 年 1 月 14 日—2016 年 5 月 31 日

### 【研究体制】

#### プロジェクト型

#### 【担当教員】

石田 陽介 教授 美術科彫刻専攻

池田 晶一 准教授 工芸科

### 【参加学生】

井野 涼 大学院修士課程絵画専攻  
油画コース2年

湯本 裕生 美術科彫刻専攻3年

大山 日歩 美術科彫刻専攻4年

河野 太郎 大学院修士課程工芸専攻2年

村田 言恵 大学院修士課程工芸専攻1年

李 佳妮 大学院修士課程工芸専攻1年

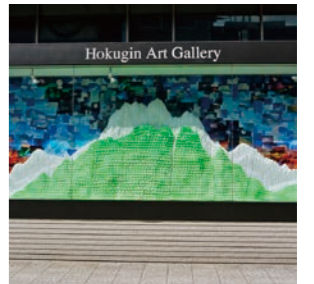
油画3年有志

本学と北陸銀行は平成 22 年 6 月に連携協定を締結し、若手作家の育成等を目的に支店の一部をギャラリーとして活用している。

連携協定にもとづく展示は、小立野支店、金沢中央支店、もりの里支店などのウィンドウや店舗内を活用し、学生が各支店の展示環境等を活かした美術作品の企画・提案を行っており、まちのミニ美術館として地元の商店街や住民の方々に定着し親しまれている。



個展「集積」井野 涼



個展「緑は自然の色なんだって」大山 日歩



個展「森の中で/森の外から」河野 太郎

### 【展示日程】

#### 2015 年 - 2016 年

- 井野 5 月 18 日～3 月 31 日  
金沢中央支店
- 湯本 5 月 1 日～6 月 30 日  
小立野支店
- 大山 7 月 1 日～10 月 15 日  
小立野支店
- 河野 10 月 16 日～12 月 4 日  
小立野支店
- 村田 12 月 8 日～2 月 19 日  
小立野支店
- 李 2 月 23 日～5 月 31 日  
小立野支店
- 油画 3 年有志 11 月 24 日～1 月 22 日  
もりの里支店



# 076

## 問屋まちスタジオにおける活動 問×美 2015 — JOINT —



【主催】  
問屋まちアートファクトリープロジェクト  
実行委員会

【会期】  
2015年9月25日～10月9日  
13:00～18:00 入場無料

【会場】  
問屋まちスタジオ 金沢市問屋町1丁目90  
問屋団地の企業内展示スペース

【担当教員】  
真鍋 淳朗 教授 美術科油画専攻

【参加学生】

杉本 小百合 工芸科1年  
大野 三結 油画専攻3年  
沖田 愛有美 油画専攻2年  
中桐 聡美 油画専攻2年  
中島 大河 油画専攻3年  
野木 麻美 油画専攻3年  
山中 亜衣 日本画専攻4年  
佐藤 文 工芸科4年  
楓 大海 大学院修士課程絵画専攻  
油画コース1年

高橋 直宏 大学院修士課程彫刻専攻1年  
千川 岳志 大学院修士課程絵画専攻  
油画コース1年

早川 璃 大学院修士課程絵画専攻  
油画コース1年

米田 貴雅 大学院修士課程絵画専攻  
油画コース1年

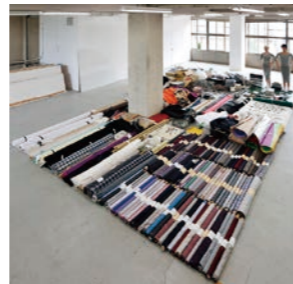
【後援】  
北國新聞社

「問×美 2015 — JOINT —」を開催するにあたり、問屋町の企業 21 社から素材と技術の提供があり、それをもとに複数の学生が共同して問屋まちスタジオの空間を作り上げた。展覧会期間中も制作を継続し各々の個性がぶつかり合うことで混沌とした空間が日々変容していき、未知な素材と非日常な場を与えられたことで学生達にとって挑戦的な表現となった作品が散見された。

さらに問屋町団地内の 11 企業の社内スペースの提供をうけて、問屋まちスタジオで制作している学生達個々の作品も展示した。

問屋まちスタジオの共同作品と 11 企業の社内で展示している個々の作品との対比も含めて楽しんでもらうと同時に、問屋まちスタジオが拠点となり、問屋町団地にアートによるネットワークが構築された。

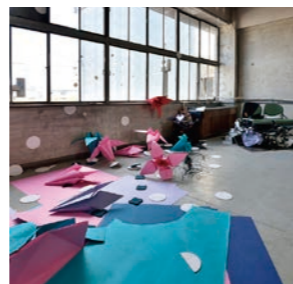
展示期間中に、陶芸家 四井雄大氏による4度目となるワークショップが「陶芸でうつわを作るワークショップ」をテーマに行われ、リアルな制作の話などを交えながら実際に使える器作りが体験できた。また、アーティスト 高本敦基氏によるレクチャーが「卒業後の制作とゲンジツ」をテーマに開催され、美大を卒業してからの制作と、現在取り組んでいる地域(岡山県美作地域)を拠点にした活動に至るまでを通して、作家自身も学生時代に不安だった「卒業後」の一例について語られた。



問屋町の企業 21 社から提供された素材



問×美 2015 - JOINT - 展のオープニング風景



提供された素材を使って制作された学生作品



建物の施設と提供された素材を融合させた学生作品

【メディア取材】  
北國新聞 北陸中日新聞  
金沢ケーブルテレビ

【入場者数】  
120 名

平成 27 年度 (公財) いしかわ県民文化振興基金 文化活動支援事業  
平成 27 年度 問屋まち活性化活動支援事業  
平成 27 年度 金沢美術工芸大学特別研究

# 077

## アートベース石引における展示活動



公開制作「海嘯を祈む」 東日本大震災における宮城大学との「心をつなぐサイン計画」を通じた協同プロジェクト

【委託者】  
金沢美術工芸大学 アートベース石引

【期間】  
2015年4月11日～2016年3月29日

【研究体制】  
プロジェクト型

【担当教員】

仁志出 龍司 教授 美術科日本画専攻  
西出 茂弘 教授 美術科日本画専攻  
三浦 賢治 教授 美術科油画専攻  
大森 啓 教授 美術科油画専攻  
高橋 治希 准教授 美術科油画専攻  
岩崎 純 准教授 美術科油画専攻  
石田 陽介 教授 美術科彫刻専攻  
芝山 昌也 准教授 美術科彫刻専攻  
浜田 周 准教授 美術科彫刻専攻  
鏑 隆弘 教授 環境デザイン専攻  
河崎 圭吾 教授 製品デザイン専攻  
安島 諭 教授 製品デザイン専攻  
城崎 英明 教授 工芸科  
森村 佐和子 教授 一般教育

【展示日程】

2015年4月11日～4月19日  
展覧会「はじめ展」  
森 花音 日本画専攻 2年 他

2015年4月21日～4月30日  
展覧会「うつろい展」  
安田 純 日本画専攻 2年 他

2015年6月1日～6月10日  
展覧会「さんごてん」  
南 光太郎 日本画専攻 2年 他

2015年6月11日  
講演会「第7回 芸塾 土方大」  
大山 日歩 彫刻専攻 4年 他

2015年6月20日  
講演会「第8回 芸塾 ちよっとスーバーまで2015」  
大山 日歩 彫刻専攻 4年 他

2015年6月28日  
ワークショップ「みてみて見立て☆組み立ててみて☆」  
ちきゅう部

2015年7月2日～7月3日  
授業成果展示「工芸科1年生繊維材料演習作品展」  
工芸科専攻1年 全員

2015年7月26日～8月2日  
展覧会「ふとんからの一歩」  
柳室 敦也 日本画専攻 2年 他

石引商店街の書店跡に、金沢美術工芸大学のオルタナティブスペースとして2011年8月にオープンして以降、1年を通じて展覧会や講演、ワークショップ、授業の教室として活用されている。平成 27 年度は計 21 本の企画が行われた。(展覧会 12、公開制作 2、講演会 2、ワークショップ 2、授業展示 1)

アートベース石引は、学生にとって自身の取り組みを社会に示す最初の場所として機能していると共に、商店街にとっては町の美術館として、地域の特徴づくりに貢献している。そのすべての企画は、地域に向けて公開する事を前提としており、単に大学のスペースの延長ではなく、学生目線で地域コミュニティの形成にどの様に関わるかについての前線基地であると言える。



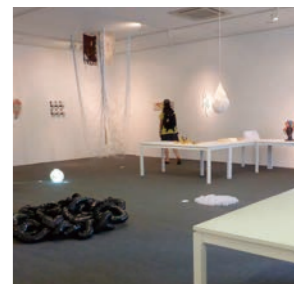
地域の子供達を対象のワークショップ「みてみて見立て☆組み立ててみて☆」



地域の文化シーンを立体的に構成した展覧会「さんごてん」



鑑賞者参加型の展覧会「恋愛シミュレーションゲーム マトモに恋がしたい☆☆」



繊維材料を用いて制作した作品の展覧会

2015年8月9日  
空間演出「七夕 - project」  
伊藤 呼春 彫刻専攻 2年 他

2015年8月12日～8月21日  
展覧会「恋愛シミュレーションゲーム マトモに恋がしたい☆☆」  
開発 道子 油画専攻 3年 他

2015年8月12日～8月21日  
ワークショップ「踊る人形 in 金沢石引」  
加藤 裕星 彫刻専攻 4年

2015年9月29日～10月11日  
展覧会「モノクロ 4ch」  
大出 久美子 油画専攻 3年 他

2015年10月26日～11月3日  
展覧会「in the Mists」  
鈴木 葉菜 彫刻専攻 2年 他

2015年12月7日～12月11日  
展覧会「未来 河合整作 in 金美」  
佐藤 優子 環境デザイン専攻 2年 他

2015年12月16日～12月26日  
展覧会「男つてばかよね～展」  
古中 雄二 油画専攻 2年 他

2015年12月29日～2016年1月5日  
公開制作「池上 vs 米田 公開制作バトル」  
池上 竹途 大学院修士課程絵画専攻油画コース1年 他

2016年1月20日～1月26日  
展覧会「フィギュア展 FUSION」  
飯島 泰昭 製品デザイン専攻 2年 他

2016年3月11日～3月13日  
公開制作「海嘯を祈む」  
鈴木 僚 製品デザイン専攻 4年 他

2016年3月24日～3月29日  
展覧会「ないど展」  
長尾 柚香 油画専攻 1年 他



# 078

## 人工衛星を利用した地上絵の制作研究

三谷研究開発支援財団、JSPS 科研費（基盤 C）助成研究によって開発した技術を基に、金沢市民芸術村アクションプラン実行委員と金沢美術工芸大学・宇宙航空研究開発機構（JAXA）が共催し、三菱鉛筆株式会社による協賛を得て「だいちの星座 -かがやき星団-」プロジェクトを実施し、金沢市全域をキャンパスに見立て、人工衛星を利用して地上に大きな「星団」や「星座」を描く地上絵を制作した。この他、アーカスプロジェクト実行委員会が主催し株式会社ジョイフル本田協賛により「だいちの星座 -つくば座・もりや座 -ドキュメント展」(茨城県守谷市)、アトスペースキムラ ASK? と金沢美術工芸大学・宇宙航空研究開発機構（JAXA）が共催し種子島宇宙芸術祭実行委員会の協力により「だいちの星座 -たねがしま座・もりや座・つくば座-」展（東京都中央区）が開催された。

本活動は、鹿児島県南種子町、茨城県つくば市・守谷市、金沢市の市民、及び鹿児島大学、筑波大学、金沢美術工芸大学が相互に交流する地域連携事業として機能した。



撮影：加藤 甫



金沢市民芸術村でのワークショップの様子  
撮影：加藤 甫



作品「かがやき星団」(部分)



鹿児島県南種子町での作品完成報告会の様子  
撮影：小早 太



金沢市民芸術村での展示会場の様子  
撮影：中川 暁文

【助成・支援者】
JSPS 科研費、三谷研究開発支援財団、三菱鉛筆株式会社
【期間】
2015年4月1日 - 2016年3月31日
【研究体制】
プロジェクト型
【担当教員】
鈴木 浩之 准教授 美術科油画専攻

【参加学生】
野村 由香 彫刻専攻3年
安慶名 眞由美 油画専攻2年
沖田 愛有美 油画専攻2年
中桐 聡美 油画専攻2年
藤原 保奈美 油画専攻2年
伊藤 呼春 彫刻専攻2年
杉崎 高空 彫刻専攻2年
服部 達也 彫刻専攻2年
松村 れん 彫刻専攻2年
天木 詩織 視覚デザイン専攻2年
岩城 佳那子 油画専攻1年
小田 幹子 油画専攻1年
仁木 このみ 油画専攻1年
森口 真美子 油画専攻1年
乙部 亮 日本画専攻1年
岩田 春菜 彫刻専攻1年
上野 春香 彫刻専攻1年

【開発日程】	
2015年	
4月	実験 (金沢美術工芸大学グラウンド) 「だいちの星座」展 (アーカススタジオ/守谷市) 活動説明会(金沢美術工芸大学)
5月	第1回打ち合わせ
6月	フィールドサーベイ(金沢市内) 第2回打ち合わせ
7月	第3回打ち合わせ 実験 (金沢美術工芸大学グラウンド)
8月	第4回打ち合わせ 「だいちの星座」展 (アトスペースキムラASK?/東京) シンポジウム開催 (アトスペースキムラASK?/東京)
10月	ハンドメイド電波反射器の 製作ワークショップ (金沢市民芸術村) 人工衛星を利用した地上絵 「かがやき星団」撮像 (金沢市民芸術村)
2016年	
1月	作品「かがやき星団」完成
2月	「だいちの星座」展 (金沢市民芸術村)

# 079

## 「金沢百万石まつり」スタッフTシャツデザイン

金沢百万石まつり実行委員会事務局（金沢市観光交流課内）より依頼があり、金沢百万石まつりに従事する約300名のスタッフが着用するTシャツのデザイン提案が求められた。メイン行事である「百万石行列」を中心としたまつり全体の高揚感の醸成と、北陸新幹線が開業する平成27年、第64回よりデザインを一新し、金沢百万石まつりの魅力向上を図る目的で、本学学生によるデザイン案からコンペ形式で選抜することとなった。

デザイン科学生に向けたコンペでは10案が集まったのち、事務局により選抜され、まつりのロゴと北陸新幹線をあしらった本案が最優秀作品として選ばれた。制作では発色や定着、堅ろう性を考慮し、シルクスクリーン印刷による工程を経て完成に至った。

完成したTシャツは、平成27年6月5日（金）～7日（日）の3日間にわたって着用され、多くの観客の目に触れるとともに、メディアにも取り上げられ、話題となった。



Tシャツ フロント



Tシャツ リア

【委託者】
金沢市 金沢百万石まつり実行委員会事務局 (金沢市観光交流課内)
【期間】
2015年2月下旬 - 2015年6月7日
【研究体制】
プロジェクト型
【担当教員】
鈴木 康雄 教授 デザイン科視覚デザイン専攻

【参加学生】
<最優秀作品> 塚本 友理 環境デザイン専攻3年
<選外> デザイン科学生9名

【開発日程】	
2015年	
2月下旬	事務局より依頼
3月	公募要件の精査
4月17日	募集開始
4月30日	募集締め切り
5月初旬	選抜～決定
5月	制作(外部委託)
6月5日(金)～7日(日)	百万石まつりで使用





# 075 >> 086



075	組み合わせ方で中身が引き立つ容器	24
076	「カナコレ!」 BLE ビーコンを活用した、 大学内で利用する画像シェアサービスの開発	25
077	日本の伝統要素を取り入れた 「BLE ビーコン」を納めるケース製作	26
078	大野市まいたけキャラクターのデザイン開発	27
079	コンパクトカーの内外装アイテム提案	28
080	ロフト金沢店 オープニング壁面ディスプレイ 企画・制作	29
081	新しい価値を持ったメガネのデザイン	30
082	北陸デスティネーションキャンペーン 「北陸 STANDARD +」	31
083	人間中心の地域社会を実現する IoT (Internet of Things) に関する研究	32
084	麒麟ビバレッジ新商品企画の提案	33
085	ローンカードなどのデザイン企画	34
086	30 代家族が住みたくなる戸建住宅の提案	35



# 075

## 組み合わせ方で中身が引き立つ容器



本プロジェクトは、金沢市に拠点を置く食品容器メーカー馬場化学工業との共同企画である。真空成形の技術を用いて既存の商品にはない新デザインを提案することを目的とする。4年目となる今期のテーマは、「組み合わせ方で中身が引き立つ容器」である。

例年どおり昨年の参加メンバーとの意見交換に始まり、実際に金沢の街に出て参考になりそうな商品を購入分析した。今年度の参加メンバーは7名、中間発表を経て2名に絞り込み、容器展開の多様性や商品陳列のイメージを膨らませるため、KITTEや東京ソラマチ、銀座の店舗など東京でのリサーチをおこなった。何度もブラッシュアップを重ね、最終的に山戸落さんの「ローションフィーバー」が選ばれた。

1,500個という大量の商品、ゼリーという食品を扱うための衛生面の問題など、超えなければならないハードルは多数あったが、成果物は2015年の本学オープンキャンパスでお披露目され、多くの来場者から好評を得た。



サンプルとして購入した既存の商品容器の構造やデザインを分析する。



中間発表の様子。馬場社長から商品化を前提にした実践的な質問が飛ぶ。



次年度参加メンバーも手伝って大量の生産作業をおこなう。3,000個のゼリーにシールを貼る。



オープンキャンパスでの配布ブース。学生レベルを超えた成果物に驚きの声が多く寄せられた。

【委託者】
馬場化学工業株式会社
【期間】
2014年8月1日 - 2015年7月31日
【研究体制】
プロジェクト型
【担当教員】
坂野 徹 准教授(統括) デザイン科 視覚デザイン専攻
畝野 裕司 准教授 デザイン科 環境デザイン専攻

【参加学生】
山田 明子 視覚デザイン専攻2年
山本 佳奈 視覚デザイン専攻2年
山戸 露 視覚デザイン専攻2年
山内 亜華里 環境デザイン専攻2年
松尾 郁実 環境デザイン専攻2年
塚本 友理 環境デザイン専攻2年
三上 彩 環境デザイン専攻2年

【開発日程】
2014年
8月6日 参加者募集、意見交換会
8月29日 金沢リサーチ(金沢駅、大和)
2015年
1月23日 中間発表
4月2日 東京リサーチ(KITTE、丸の内ビルディング、東京ソラマチ)
4月3日 東京リサーチ(ドーバーストリートマーケットギンザ、資生堂パーラー銀座本店、MoMA DESIGN STORE, TOKYO)
6月 量産
7月18日~19日 お披露目(オープンキャンパス)

# 076

## 「カナコレ!」 BLE ビーコンを活用した、大学内で利用する画像シェアサービスの開発



【委託者】
株式会社 DNP デジタルコム
【期間】
2014年11月 - 2015年10月

【研究体制】
プロジェクト型

【担当教員】
寺井 剛敏 教授 デザイン科視覚デザイン専攻
安島 諭 教授 デザイン科製品デザイン専攻

【参加学生】
大野 三結 油画専攻3年
荻田 瑞絵 視覚デザイン専攻3年
吉本 穂花 視覚デザイン専攻3年
渡辺 雅夫 視覚デザイン専攻3年
橋原 領基 製品デザイン専攻3年
黒澤 秀 製品デザイン専攻3年
山崎 文菜 製品デザイン専攻3年

【開発日程】
2014年
11月28日 第1回合同ミーティング(株式会社DNPデジタルコム本社)
12月~ 大学内サーベイ・ユーザー行動の分析・ニーズの発見
2015年
1月~ サンプルケースによるチュートリアル
1月30日 第2回合同ミーティング・ワークショップ(金沢美術工芸大学)
2月~ ビーコンデザイン
2月20日 第3回合同ミーティング・ワークショップ(金沢美術工芸大学)
3月27日 サービス案提案
4月~ アプリケーション仕様検討・テストプログラム制作
5月13日 アプリケーションテスト
5月18日~19日 第4回ミーティング・ワークショップ(金沢美術工芸大学)
5月中旬~ 公開実験に向けたサービス詳細検討・プログラムの調整
7月17日~18日 オープンキャンパスでの公開実験(金沢美術工芸大学)
7月中旬~ 最終仕様の検討・完成
10月9日 最終報告会(株式会社DNPデジタルコム本社)

BLE ビーコン (Bluetooth Low Energy を使用した信号発信機) とスマートデバイスを活用したサービス開発を通じて、PBL (Project Based Learning: プロジェクトを通じた教育) による若手社員教育の意味合いを備えたプロジェクトである。

DNP デジタルコムのソフトウェアの開発技術力と金沢美術工芸大学のクリエイティブ力を合わせ、大学内での活用ニーズを見据えた新たなサービスを構築することを目標とした。

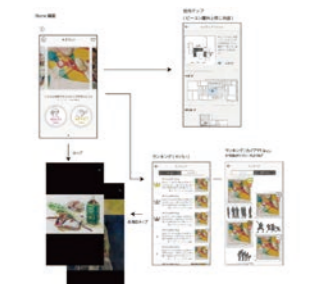
最終提案は、学生作品の投稿・シェア・投票を行う SNS (Social Networking Service) 的な学内ローカルサービスとして、オープンキャンパスで来客者を対象とした公開実験を行い、フィードバックをもとにサービスとして完成させた。



合同ワークショップ



Skype 会議



「カナコレ!」アプリ画面フロー



オープンキャンパスでの公開実験



# 077

## 日本の伝統要素を取り入れた「BLE ビーコン」を納めるケース製作



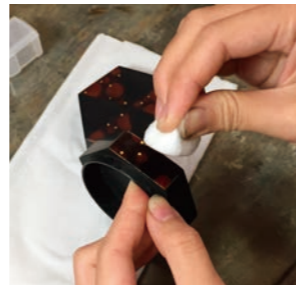
これまで産学連携を進めてきた関係から、DNP デジタルコム社内で進めている BLE ビーコン (Bluetooth Low Energy を使用した信号発信機) を使ったプロジェクトより、海外の方々への提案として、工芸科学生の技術を使い、日本の伝統工芸的要素を取り入れた「BLE ビーコン」を納めるケースの研究開発を行った。



ビーコンが電波を受けるイメージ



金属のビーコンケース



漆のビーコンケース



陶磁のビーコンケース



和紙のビーコンケース

【委託者】  
株式会社 DNP デジタルコム

【期間】  
2015年4月—2015年7月

【研究体制】  
プロジェクト型

【担当教員】  
山村 慎也 教授 工芸科  
原 智 教授 工芸科  
寺井 剛敏 教授 デザイン科視覚デザイン専攻  
安島 諭 教授 デザイン科製品デザイン専攻

【参加学生】  
中新田 絵子 大学院修士課程工芸専攻 木工コース1年  
李 小筠 大学院修士課程工芸専攻 漆コース2年  
長尾 佳奈 大学院修士課程工芸専攻 鍍金コース1年  
田中 陽子 大学院修士課程工芸専攻 陶磁コース1年  
加茂 那奈枝 大学院博士後期課程 美術工芸専攻油画コース2年

【開発日程】  
2015年  
4月 オリエンテーション  
4月～ 学内調整及び試作、製作期間  
7月 完成納品

# 078

## 大野市まいたけキャラクターのデザイン開発

大野市では舞茸を中心に、地域の特産品である農産物を積極的に売り出そうとしている。商品を取る箱や袋への貼付のほか、販売キャンペーンの際に羽織る上着、販売店付近に設置するのぼり旗での使用を想定し、親しみを持ちやすいキャラクターのデザインについて制作を行った。

キャラクターのイメージの共有から始め、のぼり旗や上着の背中に使う大きなサイズでの使用、商品に貼付する小さなシールでの使用を想定した検証、カラーを使用する場合のパリエーション、白黒で使用する場合のパターン検討、キャラクター名のグラフィックなどについて検討を行い、一つのデザイン案としてまとめた。



【委託者】  
中日本ハイウェイ・エンジニアリング 名古屋株式会社

【期間】  
2015年2月27日—2015年12月25日

【研究体制】  
プロジェクト型

【担当教員】  
鏑 隆弘 教授 デザイン科環境デザイン専攻  
畝野 裕司 准教授 デザイン科環境デザイン専攻

【参加学生】  
奥田 亜美 環境デザイン専攻4年

【開発日程】  
2015年  
3月16日 第1回ミーティング  
4月27日 第2回ミーティング  
プライマリー案の検討と意見交換  
5月1日 第3回ミーティング  
プレゼンテーション  
12月25日 制作物の応用例の確認  
最終案の提案





# 079

## コンパクトカーの内外装アイテム提案



自動車内装部品メーカーの小島プレス工業株式会社との産学連携プロジェクト。

3回目の今回はデザイン科3専攻で取り組んだ。「2025年、未来のライフスタイルを豊かにする車」というテーマのもと、若年世代に共感され、自分たちが乗りたいと思えるコンパクトカーの機能提案を行った。

専攻を横断した4人組でリサーチやディスカッションなどのグループワークを重ね、多様な視点を取り込みながら最終的に各自がオリジナリティの高いアイデアにまとめた。中間ミーティングではプロからの的確なアドバイスを受け、愛知県での工場見学や資料館見学で知見を深めることも重要なプロセスとなり、産学連携プロジェクトならではの貴重な経験となった。



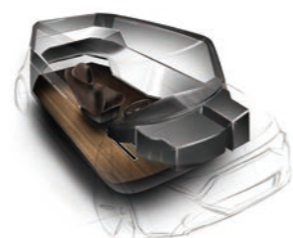
工場見学



グループワークのプレゼンテーション



中間プレゼンテーション



インテリアデザインの提案

【委託者】  
小島プレス工業株式会社

【期間】  
2015年5月1日—2015年3月31日

【研究体制】  
プロジェクト型

【担当教員】  
北村 賢哉 准教授 デザイン科環境デザイン専攻  
浅野 隆 教授 デザイン科製品デザイン専攻  
寺井 剛敏 教授 デザイン科視覚デザイン専攻

【参加学生】  
江原 次郎 製品デザイン専攻3年  
北出 琢朗 製品デザイン専攻3年  
正入木 雄哉 製品デザイン専攻3年  
白木 伸 製品デザイン専攻3年  
山崎 嵩弘 製品デザイン専攻3年  
加藤 美咲 製品デザイン専攻3年  
溝越 万莉 製品デザイン専攻3年  
石原 裕樹 環境デザイン専攻3年  
川上 すみれ 環境デザイン専攻3年  
中内 萌木 環境デザイン専攻3年  
早川 真央 環境デザイン専攻3年  
三上 彩 環境デザイン専攻3年  
名和 礼萌 視覚デザイン専攻3年  
村田 敦子 視覚デザイン専攻3年  
本江 兼捷 視覚デザイン専攻3年  
横山 紗希 大学院修士課程デザイン専攻1年

【開発日程】  
2015年  
5月15日 オリエンテーション  
5月25日 学内検討会1  
6月8日 学内検討会2  
6月10日 中間ミーティング1  
6月22日 学内検討会3  
7月6日 学内検討会4  
7月13日 中間ミーティング2  
8月2日 中間プレゼンテーション  
8月3日 工場見学  
9月14日 学内検討会5  
10月7日 学内検討会6  
10月26日 中間ミーティング3  
11月25日 学内検討会7  
12月16日 最終プレゼンテーション

# 080

## ロフト金沢店 オープニング壁面ディスプレイ企画・制作



Loft  
×  
金沢美術工芸大学

ロフト100店舗目が、ここ百万石の地にやってきました。このたび、金沢美術工芸大学の学生とロフトの魅力伝えるオープニング企画を約2か月にわたって一緒に考えてまいりました。様々なワークショップをしたり、新しい商品を取り入れたり生活を彩るステキな可能性にあふれたロフト、ロフトラボ。これからのラボの楽しさを予感させるような扉をひらいたりのぞいたりしてワクワクしてもらえるスペースが出来上がりました。

2015年の北陸新幹線開業にともない、ロフト100店舗目が、金沢・片町きららにオープン。生活を彩るステキな可能性にあふれたロフト、ロフトラボの楽しさを予感させるようなオープニング企画「ひらいてのぞいてロフトビラ」の壁面ディスプレイを企画・制作した。

### KANAZAWA コビトビラ

「弁当忘れても傘忘れるな」という言葉があるほどに金沢は雨の街と言われていることや、金沢のシンボリックな二つの川のうちの一つである犀川、雪吊りなど、小人から見た金沢の世界を、LOFTの商品を使って表現。

### のぞき見 金沢十景

風景画の中にある10ヶ所の建物の窓をのぞき込むと、不思議な金沢の世界が広がる壁面ディスプレイ。4枚のレイヤーを重ね合わせた奥行きのあるビジュアルを展開し、金沢の文化や言い伝えを世界観のあるグラフィックで表現。



カナザワコビトビラ (大橋・中園)



カナザワコビトビラ トビラの中



のぞき見 カナザワ十景 (林・新田)



のぞき窓の中

【委託者】  
株式会社ロフト

【期間】  
2015年6月1日—2015年10月31日

【研究体制】  
プロジェクト型

【担当教員】  
角谷 修 教授 デザイン科環境デザイン専攻  
畝野 裕司 准教授 デザイン科環境デザイン専攻

【参加学生】  
大橋 南海 環境デザイン専攻3年  
中園 摩美 環境デザイン専攻3年  
新田 梨佳 環境デザイン専攻3年  
林 季里 環境デザイン専攻3年

【開発日程】  
2015年  
6月9日 オリエンテーション + 第1回ワークショップ  
6月16日 第2回ワークショップ  
6月24日 第3回ワークショップ  
7月1日 株式会社ロフト様へ中間プレゼンテーション  
8月5日 株式会社ロフト様へ最終プレゼンテーション  
9月18日 片町きららロフト100店舗目オープン



# 081

## 新しい価値を持ったメガネのデザイン



福井県眼鏡協会と金沢美術工芸大学の産学連携により、日本製メガネが誇る世界トップクラスの技術力が生み出す品質や信頼性と学生ならではのクリエイティブなデザインとを融合し、made in fukui 「291」のブランドをより新しく世界に発信する。

「メガネ部」のクラブ活動としての産学連携は、他大学では類を見ない学生主体の特色ある形態により長年続いている連携事業で、情報の引き継ぎによるノウハウの蓄積があり、年々研究が深まっている。この活動は着実に実績を重ね、成果として少なからず産地活性化に貢献している。よりいっそう努力を重ね、レベルアップを計り、今後も連携を継続していくことが重要である。

本年度は5つのテーマを設けグループ別にデザイン開発を行った。テーマは、スポーツ、ヘルスケア、作業、レジャー、新技術。未来を拓く若い学生の感性を取り入れた斬新で革新的なアイデアのメガネが多数提案された。



メガネメーカー見学



プロデザイナーとのアイデア検討会



美大祭展示



メガネフェスタ参加

【委託者】	一般社団法人 福井県眼鏡協会
【期間】	2015年6月—2016年3月
【研究体制】	プロジェクト型
【担当教員】	浅野 隆 教授 デザイン科製品デザイン専攻
【参加学生】	「スポーツ」グループ 松本 優子 製品デザイン専攻3年 鈴木 僚 製品デザイン専攻4年 坂井 美香 製品デザイン専攻3年 小宮山 拓未 製品デザイン専攻2年 大河内 悠 製品デザイン専攻2年 飯島 泰昭 製品デザイン専攻2年 小島 弘嵩 製品デザイン専攻1年 大橋 康平 製品デザイン専攻1年 内海 春佳 製品デザイン専攻1年

【ヘルスケア】グループ	馬場 菜摘 製品デザイン専攻3年 三品 拳大 大学院修士課程デザイン専攻2年 山本 菜優子 製品デザイン専攻2年 今村 明香 製品デザイン専攻2年 井藤 康平 製品デザイン専攻1年 大石 まなみ 製品デザイン専攻1年 田中 侑実 製品デザイン専攻1年 西村 正之 製品デザイン専攻1年
【作業】グループ	桑原 孝史 製品デザイン専攻3年 佐藤 大輔 製品デザイン専攻4年 武井 堯子 製品デザイン専攻3年 平井 七海 製品デザイン専攻2年 長谷川 尚実 製品デザイン専攻2年 長谷川 皓士 製品デザイン専攻1年 島 夏海 製品デザイン専攻1年 森 琴音 製品デザイン専攻1年 藤川 敏生 製品デザイン専攻1年
【レジャー】グループ	一丸 真奈美 製品デザイン専攻3年 吉野 あゆみ 製品デザイン専攻4年 津野 茜 製品デザイン専攻2年 松浦 克彦 製品デザイン専攻2年 清水 翔太 製品デザイン専攻2年 都筑 亮志 製品デザイン専攻1年 中村 有希 製品デザイン専攻1年 吉戸 妙織 製品デザイン専攻1年

【新技術】グループ	合田 貴子 製品デザイン専攻3年 薄上 敏太郎 大学院製品デザインコース2年 黒澤 秀 製品デザイン専攻3年 浅見 日向子 製品デザイン専攻2年 松村 圭介 製品デザイン専攻1年 橋川 裕貴 製品デザイン専攻1年 星 健太郎 製品デザイン専攻1年 當宮 楽樟 製品デザイン専攻1年
【開発日程】	2015年 6月11日 学内オリエンテーション グループ分け グループでリサーチ アイデア出し 7月15日 学内アイデア中間発表 8月7日 工場見学 デザイナーとの意見交換 9月12日 めがねフェス 最終プレゼン 10月6日 IOFT2015 出展 ~8日 視察見学 11月1日 美大祭展示 ~3日

# 082

## 北陸デスティネーションキャンペーン「北陸 STANDARD+」



【委託者】	株式会社ジェイアール東日本企画
【期間】	2015年7月1日—2015年9月31日
【研究体制】	プロジェクト型
【担当教員】	坂野 徹 准教授 デザイン科視覚デザイン専攻
【参加学生】	篠田 彩音 視覚デザイン専攻3年 呉藤 結咲 視覚デザイン専攻3年 辻 ひとみ 視覚デザイン専攻3年 横山 茜 視覚デザイン専攻3年 松村 怜実 視覚デザイン専攻4年

JRグループが展開している北陸（富山、石川、福井）デスティネーションキャンペーンとの連動企画として、「北陸 STANDARD+」のキービジュアルの開発依頼が本学の視覚デザイン専攻にいった。

本学からイラストレーション制作を得意とする学生を5名選抜し、pdfデータのかたちにまとめたポートフォリオを提出した。どの作品も想像以上にレベルが高いと評価されたが、最終的に企画のテイストに一番合致した篠田彩音さんが採用された。

彼女が制作した懐かしきもどこか新しさを感じるキービジュアルは、ジェイアール東日本都市開発が運営するエキナカ商業施設「エキュート」8館の駅貼り広告や吊り広告、ゲート、レストラン、冊子、ショップ、各種POPなどあらゆるところに展開され、駅を利用する多くの人に北陸の魅力を伝えた。



プライスPOP



告知サイト (駅バラ)  
<http://www.ekipara.com/>



リーフレットのレイアウトにも篠田さんのイラストが使われました



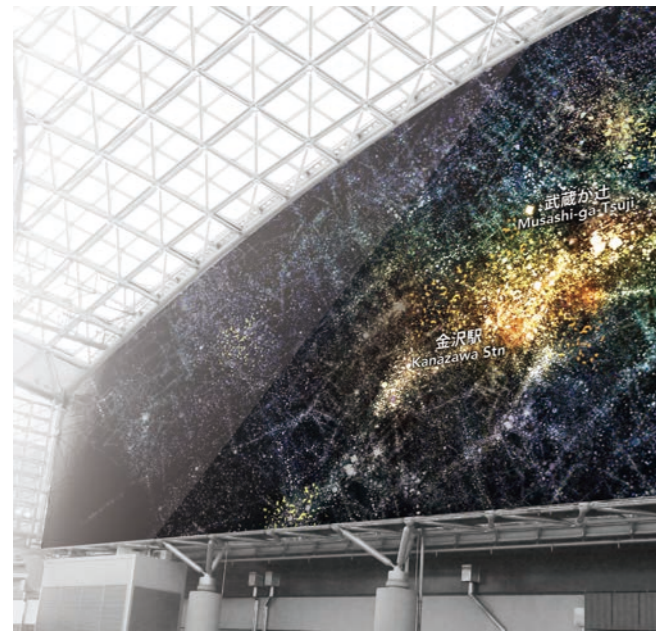
駅のあらゆる場所に使われています

【開発日程】	2015年 7月10日 参加者募集 7月16日 参加学生5名分の ポートフォリオ提出 7月21日 篠田彩音さんの案に決定 7月27日 本学にてジェイアール東日 本企画（森氏、西川氏、石黒氏、 小泉氏）とミーティング 8月4日 ラフデータ提出 8月 イラスト制作 10月5日~18日 キャンペーン期間
--------	--



# 083

## 人間中心の地域社会を実現する IoT (Internet of Things) に関する研究



「モノのインターネット」(IoT) が改めて注目を集めるなか、ユーザーのニーズやビッグデータの活用を探るとともに、情報通信技術 (ICT) とサービスにより実現可能な地域社会の姿を描き、今後のデザイン開発につなげていくための研究である。

金沢でオリンピックが開催されると想定し、選手、観光客、市民に対して金沢開催ならではの「おもてなし」を実現するという具体的なテーマを設定して研究を進めた。富士通のデザイナーによるワークショップや金沢調査、エクスペリエンスマップ制作、現場でのシミュレーションなどのプロセスを経て、富士通での成果発表を実施した。



オリエンテーション



デザイン検討



エクスペリエンスマップによる検討



学内中間発表

【委託者】  
富士通デザイン株式会社

【期間】  
2015年10月1日—2016年3月31日

【研究体制】  
プロジェクト型

【担当教員】  
村中 稔 教授 デザイン科製品デザイン専攻

【参加学生】

池田 有希	製品デザイン専攻3年
石田 晴希	製品デザイン専攻3年
一丸 真奈美	製品デザイン専攻3年
鞆川 由似	製品デザイン専攻3年
江原 次郎	製品デザイン専攻3年
大石 由貴	製品デザイン専攻3年
加藤 美咲	製品デザイン専攻3年
北出 琢朗	製品デザイン専攻3年
楠原 領基	製品デザイン専攻3年
黒澤 秀	製品デザイン専攻3年
桑原 孝史	製品デザイン専攻3年
合田 貴子	製品デザイン専攻3年
正入木 雄哉	製品デザイン専攻3年
白木 伸	製品デザイン専攻3年
武井 亮子	製品デザイン専攻3年
當房 愛美	製品デザイン専攻3年
馬場 菜摘	製品デザイン専攻3年
松本 優子	製品デザイン専攻3年
満越 万莉	製品デザイン専攻3年
師 直樹	製品デザイン専攻3年
山崎 嵩弘	製品デザイン専攻3年
山崎 文菜	製品デザイン専攻3年

【開発日程】

2015年	
10月1日	オリエンテーション
10月2日	ワークショップ
10月3日~	調査・デザイン検討
11月9日	学内中間発表
12月9日	学内最終発表
2016年	
3月16日	富士通最終報告会

# 084

## 麒麟ビバレッジ新商品企画の提案

麒麟ビバレッジ株式会社様と共同で、地域活性化プログラム「カナビプロジェクト」を企画し、地域の産物などを利用した、全国、世界に発信出来るような清涼飲料水などの商品や販売方法のアイデアを検討した。

最終的にはすぐに商品化できそうな具体的な商品企画案や、新規性のある飲料ボトル、新しいプロモーションのアプローチなどが見られ、美大生らしい奇抜なアイデアから、購入者視点の共感性が高いアイデアなど数多く提案でき、大変有意義な産学連携プロジェクトとなった。



【委託者】  
麒麟ビバレッジ株式会社  
株式会社博報堂

【期間】  
2015年5月20日—2015年12月31日

【研究体制】  
プロジェクト型

【担当教員】  
寺井 剛敏 教授 (統括) デザイン科 視覚デザイン専攻  
浅野 隆 教授 デザイン科 製品デザイン専攻  
畝野 裕司 准教授 デザイン科 環境デザイン専攻

【参加学生】

今村 美月	製品デザイン専攻4年
佐藤 大輔	製品デザイン専攻4年
清水 真帆	製品デザイン専攻4年
田原 彩友美	製品デザイン専攻4年
西口 真由	製品デザイン専攻4年
船本 真希	製品デザイン専攻4年
森 雪子	製品デザイン専攻4年
吉野 あゆみ	製品デザイン専攻4年
日比野 真愛	視覚デザイン専攻3年
山田 朋子	視覚デザイン専攻3年



【開発日程】

2015年	
5月21日	オリエンテーション
6月19日	中間アイデア発表会
7月08日	学内選考会
8月18日	麒麟ビバレッジ株式会社 滋賀工場見学
8月21日	麒麟ビバレッジ株式会社 様へ 中間プレゼンテーション
9月18日	学内フラッシュアップアイデア発表会
10月21日	学内最終確認
11月11日	麒麟ビバレッジ株式会社 様へ 最終プレゼンテーション



滋賀工場見学



最終プレゼン



# 085

女性専用のローンカードのデザイン開発を依頼され、視覚デザイン2年女子学生6人が参加した。

女性を持ちたくなるデザインで、他人に見られてもローンカードに見えないように工夫した。従来のカードデザインのイメージを越えた斬新なデザインを目指し、カード決定案のイメージで販促ツールを展開、女性らしい優しさや品のある上質なデザインとなった。

## ローンカードなどのデザイン企画



フライヤー



カード



第一回プレゼン



第二回プレゼン



第三回プレゼン

[委託者]  
のと共栄信用金庫

[期間]  
2014年10月1日—2016年3月31日

[研究体制]  
プロジェクト型

[担当教員]  
工藤 俊之 教授 デザイン科視覚デザイン専攻

[参加学生]  
小林 優希 視覚デザイン専攻2年  
小浜 晶子 視覚デザイン専攻2年  
厚見 桃香 視覚デザイン専攻2年  
岩松 菜 視覚デザイン専攻2年  
松波 里菜 視覚デザイン専攻2年  
山本 晴香 視覚デザイン専攻2年

[開発日程]

2015年

10月1日 説明会  
10月9日 オリエンテーション  
10月20日 アイデアチェック  
11月10日 第1回プレゼンテーション  
11月27日 カード案決定  
12月11日 第2回プレゼンテーション  
12月28日 チラシ案決定

2016年

1月13日 第3回プレゼンテーション  
1月27日 販促ツール案、キャッチコピー決定  
2月8日 販促ツール等デザイン案送付  
2月17日 修正依頼  
3月1日 修正依頼  
3月14日 修正案提出  
3月24日 最終OK  
3月31日 最終データ入稿/納品

# 086

## 30代家族が住みたくなる戸建住宅の提案

パナホーム株式会社と環境デザイン専攻の産学連携プロジェクト。初めて住宅を計画する世代に向けた「新しい暮らし方をかなえる住宅」の提案を行った。現在は少数派だが、数年後にはそのボリュームが増すであろう「未来の常識」を作っていく先端生活者をターゲットにしてプロジェクトを進めた。東京や大阪など各地でライフスタイル調査を行いつつ、敷地は金沢市内に設定することでリアリティにも配慮した。また、各デザインプロセスの節目にはプロからのアドバイスを受けることでアイデアを磨き上げた。



オリエンテーション



学内検討会

[委託者]  
パナホーム株式会社

[期間]  
2015年10月1日—2016年3月31日

[研究体制]  
プロジェクト型

[担当教員]  
坂本 英之 教授 デザイン科環境デザイン専攻  
北村 賢哉 准教授 デザイン科環境デザイン専攻

[参加学生]  
石原 裕樹 環境デザイン専攻3年  
谷 清風 環境デザイン専攻3年  
新田 梨佳 環境デザイン専攻3年  
三上 彩 環境デザイン専攻3年

[開発日程]

2015年

10月13日 オリエンテーション  
10月20日 中間ミーティング1  
リサーチ結果報告  
10月27日 中間ミーティング2  
コンセプトとプランニング検討  
11月17日 中間ミーティング3  
デザイン検討  
11月26日 中間ミーティング4  
リファイン方向検討  
12月2日 学内プレゼンテーション  
12月24日 パナホーム本社での最終プレゼンテーション



学内プレゼンテーション



インテリアデザイン



[2015年度 社会連携運営会議]

社会連携担当理事 ———— 村中 稔  
地域連携センター長 —— 真鍋 淳朗  
産学連携センター長 —— 角谷 修  
事務局長 ————— 藤井 宏  
社会連携コーディネーター 古場田 良郎  
地域連携センター ———— 真鍋 淳朗  
高橋 治希  
中瀬 康志  
鈴木 康雄  
北村 賢哉  
池田 晶一  
産学連携センター —— 角谷 修  
佐藤 俊介  
坂野 徹  
根来 貴成  
畝野 裕司  
山本 健史

[2016年度 社会連携センター会議]

社会連携担当理事 ———— 寺井 剛敏  
社会連携センター長  
地域連携部門長 ———— 河崎 圭吾  
産学連携部門長 —— 浅野 隆  
知財管理部門長 —— 村中 稔  
事務局長 ————— 藤井 宏  
特任研究員 ————— 古場田 良郎  
地域連携部門 ———— 河崎 圭吾  
佐藤 俊介  
真鍋 淳朗  
三浦 賢治  
鈴木 康雄  
坂本 英之  
畝野 裕司  
山本 健史  
中西 由真 (事務局)  
産学連携部門 —— 浅野 隆  
荒木 恵信  
北村 賢哉  
大高 亨  
稲垣 健志  
村山 祐子  
大窪 誠 (事務局)  
知財管理部門 —— 村中 稔  
鈴木 浩之  
根来 貴成  
原 智  
高橋 明彦  
加藤 謙一 (事務局)

[報告書制作]

編集・アートディレクション —— 古場田 良郎  
編集協力・版下製作 —— 株式会社 斉藤慶デザイン研究所  
印刷 ————— 株式会社 山田写真製版所  
発行 ————— 公立大学法人 金沢美術工芸大学  
〒920-8656 石川県金沢市小立野5丁目11番1号  
TEL 076-262-3531  
FAX 076-262-6594  
<http://www.kanazawa-bidai.ac.jp>  
発行日 ————— 2016年7月